

# 間接受身の動詞と ke- -an 述語動詞の特徴について

— マレーシア語の名詞と形容詞を語基とするものを中心に —

Leow Yoon Chin

(2002年9月30日受理)

Properties of the Indirect Passive Verbs and ke- -an Passive Verbs  
— Focusing on the ke- -an verbs derived from noun and adjective roots —

Leow Yoon Chin

Adversity meaning found in the Indirect Passive in Japanese is said to be similar to that of the ke- -an passive in Bahasa Malaysia. Although these two expressions share similarities semantically, they are different morphologically. Indirect Passive has restrictions where it can only take verbs as its root. On the other hand, the ke- -an passive can take not only verbs, but also nouns and adjectives as its root. However due to the limited numbers of the ke- -an verbs, it is proper to assume that the roots for the ke- -an passive verbs are restricted to certain sub-classes to have certain properties. In this paper, the author analysed the noun and adjective roots and found that unlike the Japanese Indirect Passive where the roots must not be unaccusative verbs, the roots for the ke- -an passive verbs depend on the outer force and not the actors' volition.

Key words: ke- -an verbs, unaccusative verbs, unergative verbs, actor's volition, outer force  
キーワード： ke- -an 述語動詞, 非能格動詞, 非対格動詞, 動作主の意志, 外的要因

## 1. 問題の所在

日本語の間接受身に類似するものとして、マレーシア語では ke- -an 構文<sup>1)</sup>があげられている(松岡 1990, 森村 1992, 湯浅 1999, Leow 1999等)。しかし、両構文は意味の面では似ている部分を示しても、形態面と構文面においては完全に一致しているものではない。形態的には、間接受身文は動詞からしか作ることが出来ないのに対して、ke- -an 述語動詞は ke- -an という共接辞に名詞、動詞もしくは形容詞をはさむことによって作られるものである。しかし、どの名詞、動詞と形容詞も ke- -an 述語動詞を作るわけではない。以下の例を見よう。

- (1) アリは雨に降られた。  
→ Ali kehujanan.  
アリ ke-雨が降る-an

- (2) その子は父親に死なれた。  
→ Budak itu kematian bapanya.  
子 その ke-死ぬ-an 父親-彼の
- (3) シティは赤ん坊に泣かれた。  
→ \*Siti ketangisan bayinya.  
シティ ke-泣く-an 赤ん坊-彼女の
- (4) 彼は奥さんに去られた。  
→ \*Dia kepergian isterinya.  
彼 ke-去る-an 奥さん-彼の

(1)~(4)は間接受身文としては正しいものであるが、ke- -an 構文として成立するのは(1)と(2)のみで、(3)と(4)は ke- -an 述語動詞の不成立で非文となる。

日本語の間接受身を作る動詞に、非対格動詞<sup>2)</sup>であるとはならない(三上 1953, 影山 1993・1996等)という制約があるように、上の例文の成立と不成立からマレーシア語の ke- -an 述語動詞を作る語基にも、何かの制

約があると考えられる。本稿では ke- -an 述語動詞を作る語基のうち、名詞と形容詞に注目し、それぞれの特徴を明らかにすることを試みる。その制約を解明し、日本語の間接受身の語基との比較の基盤をつくることを目的とする。

## 2. ke- -an 構文の語基に関する先行研究

マレーシア語の ke- -an 述語動詞の語基の特徴を詳しく論じた先行研究は皆無である。ke- -an 共接辞と結合する語基とその派生語について述べた文法書として、Asmah Haji Omar & Rama Subbiah (1968), Lufti Abas (1988) と Khairul Anuar (1992) などがある。

Asmah Haji Omar & Rama Subbiah (1968) では、ke- -an 共接辞が名詞、動詞、形容詞と結合し、ke- -an 述語動詞を派生することを新しい用法とした<sup>3)</sup>。また、ke- -an 述語動詞の数が限られているという説明も加えられているが、その理由については言及されていない。

Lufti Abas (1988) では、ke- -an 構文の意味機能を「a. ～に当たる」、「b. 可能」、「c. 非意図性」と「d. ～から被害を受ける」の4つに分類された。そのうち、「b. 可能性」を除いた a, c, d の ke- -an 構文には、もとの意味に加え「非意図性」という共通の意味を持っているとされている。a の意味を表す ke- -an 構文の語基は名詞、c は形容詞、そして、d は動詞から作られるというような関連付けを行った。しかし、それぞれの名詞、動詞と形容詞の特徴については論じられていない。

Khairul Anuar (1992) では、ke- -an 述語動詞の語基の品詞の違いによって、派生される意味が異なることが述べられた。名詞が語基の場合は、ke- -an 構文は「名詞で表されているものから被害を被る」ことを表す。語基が形容詞の ke- -an 構文は「(被動者が)形容詞で表されている感覚、もしくは状況をに不可避免的に直面させられる」ことを意味する。そして、語基が動詞の ke- -an 構文は「(被動者が)動詞で表されている状況から被害を被る」ことを示す。

インドネシア語<sup>4)</sup>の ke- -an 述語動詞を考察したものとして、Soenjono Dardjowidjojo (1983) があげられる。Soenjono Dardjowidjojo (1983) では ke- -an 述語動詞はわずか45語しかないと述べられている。このように見ると、ke- -an 述語動詞を個別に覚えるのが一番確実で、速い方法であるかもしれない。なお、ke- -an 述語動詞にどのようなものがあるのかは不明である。

これまでの研究では、ke- -an 述語動詞の語基の品詞の違いから ke- -an 構文の意味を探るものが中心であった。また、マレーシア語の ke- -an 述語動詞を作る語基は数が限られていることも論じられているが、その理由については明らかにされていない。

以上の問題点を踏まえた上で、ke- -an 述語動詞の語基である名詞・動詞・形容詞のうち、日本語の間接受身の語基と全く異なる名詞と形容詞を取り上げて分析を行う。次に、名詞と形容詞の能動文を通して、間接受身の語基と比較する。

## 3. 語基の分析

### 3.1. 語基が名詞

Leow (1999) は ke- -an 構文の分析を行い、ke- -an 述語動詞を作る名詞については「純名詞句」と「動的意味を帯びる名詞句」(本稿では後者を「動的な名詞句」と呼ぶ)の2種類があることを述べた。『「純名詞句」も『動的意味を帯びる名詞句』も具体的なものを示している名詞である。しかし、『動的意味を帯びる名詞句』はそれに加え、その名詞にとって最も一般的なプロセス・作用・行為の意味も含意している。』(Leow 1999:26) と述べた。以下ではまず「純名詞句」を、次に「動的な名詞句」を考察し、それぞれの特徴を見出す。

#### (1) 「純名詞句」

|                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| candu (麻薬) — kecanduan   | 麻薬中毒する<br>[麻薬られる]    |
| malam (夜) — kemalaman    | 日が暮れる<br>[夜られる]      |
| nama (名前) — kenamaan     | 名が知られる<br>[名前られる]    |
| semut (蟻) — kesemutan    | しびれがきれる<br>[蟻られる]    |
| setan (悪魔) — kesetanan   | 悪魔にとりつかれる<br>[悪魔られる] |
| siang (昼) — kesiangan    | 寝坊する<br>[昼られる]       |
| tamu (客) — ketamuan      | 客に来られる<br>[客られる]     |
| tulang (骨) — ketulangan  | 骨がのどにかかる<br>[骨られる]   |
| seorang (一人) — seseorang | 一人ぼっちになる<br>[一人られる]  |

以上の ke- -an 述語動詞の語基を見ると、全ての名詞はある「もの」もしくは現象を表わしている。ここ

でいう「もの」とは具体物〔candu(麻薬), semut(蟻), setan(悪魔), tamu(客), tulang(骨)〕のほか、抽象名詞〔nama(名前)〕も含まれる。現象を表わす名詞は〔malam(夜), siang(昼), seorang(一人)〕のような名詞である。これらの名詞は、それ自体として「利益」の意味も「被害」の意味も持たないものである。しかし、ke- -an 構文にすることによって、被動者が語基の名詞と関わらされ、その結果として被動者が語基の示す「もの」や「現象」から被害や迷惑の影響を受けることになる。

## (2) 「動的名詞句」

「動的名詞句」はある具体物や現象を表すと同時に、その名詞にとってもっとも一般的なプロセス・作用・行為の意味を含意しているものである。このような名詞は meN-接辞<sup>5)</sup>と結合することによって、名詞の含意する意味を持つ動詞が派生される。

また、「動的名詞句」は別の名詞と結合して「被修飾(N1)－修飾(N2)」の関係を成す慣用句を作ることができる。〈N1〉hujan(雨)＋〈N2〉salji(雪)＝hujan salji(雪の雨(＝雪))、〈N1〉racun(毒)＋〈N2〉makanan(食べ物)＝racun makanan(食べ物の毒＝食べ物から発生した毒)がその例である。

このような慣用句を ke- -an 構文にすると、先行の名詞の動的名詞の意味が現われ、後続名詞が先行名詞の動的名詞の意味を受けて、ある状態を引き起こすことを表す。

〈名詞〉 air(水)→ 〈動詞〉mengairi(流れる)

〈慣用句〉 air sungai(川の水)

(5) A. Sungai mengairi kawasan itu.

Lit. 川はその地域を流れる。

B. Kawasan itu keairan sungai.

Lit. その地域は川の水に流られる。

川が氾濫する

〈名詞〉 angin(風)→ 〈動詞〉mengangini(吹く)

〈慣用句〉 angin musim panas(夏の風)

(6) A. Angin musim panas mengangini budak itu.

Lit. 夏風がその子に吹く。

B. Budak itu keanginan musim panas.

Lit. その子が夏の風に吹かれる。

夏風邪を引く

〈名詞〉 banjir(洪水)→〈動詞〉membanjiri(溢れる)

〈慣用句〉 banjir barangan luar negeri(外国製品の洪水)

(7) A. Barangan luar negeri membanjiri negara itu.

Lit. 外国製品がその国に溢れる。

B. Negara itu kebanjiran barangan luar negeri.

Lit. その国は外国製品の洪水にやられる。

外国製品が溢れる

〈名詞〉 hujan(雨)→ 〈動詞〉menghujani(降る)

〈慣用句〉 hujan salji(雪の雨(＝雪))

(8) A. Salji menghujani Ali. Lit. 雪がアリに降る。

B. Ali kehujan salji. Lit. アリは雪の雨に降られる。

雪に降られる

〈名詞〉 racun(毒)→ 〈動詞〉meracuni(毒死する)

〈慣用句〉 racun makanan(食べ物の毒)

(9) A. Makanan meracuni penduduk kampung itu.

Lit. 食べ物がその村の住民を毒死する。

B. Penduduk kampung itu keracunan makanan.

Lit. その村の住民は食べ物の毒にやられる。

食中毒する

〈名詞〉 rugi(損失)→〈動詞〉merugi(-i)<sup>6)</sup>(損させる)

〈慣用句〉 rugi perniagaan(取引の損失)

(10) A. Perniagaan merugi pemuda itu.

Lit. 取引がその青年に損させる。

B. Pemuda itu kerugian perniagaan.

Lit. その青年は取引に損させられる

取引から損を被る

上で見られるように、慣用句となる場合は「動的名詞句」は動詞として機能する。これらの慣用句には後続の名詞は必ず無生名詞でなければならないという条件を満たさなければならない制約がある。有生名詞が「動的名詞句」を後続する場合、ke- -an 構文として成立しなくなる。以下の例を参照されたい。

〈名詞〉 rugi(損)→ 〈動詞〉merugi(損させる)

〈慣用句〉 rugi saya(私の損)

(11) A. Saya rugi 30 ribu ringgit. 私は3万リンギ損した。

B.\*30 ribu ringgit kerugian saya.

Lit. 30万リンギは私に損させられた。

以上の説明をまとめると、次のようになる。ke- -an 述語動詞の名詞には「純名詞句」と「動的名詞句」がある。「純名詞句」は「もの」や現象を表わす名詞で、動的名詞の意味を持たないものである。従って、ke- -an 構文に対応する能動文もない。また、調べた限りでは「純名詞句」から作られた ke- -an 述語動詞は上記であげたもの以外は見つからなかった。この名詞による ke- -an 述語動詞は慣用的に使われるものであると考えるほかない。

一方、「動的名詞句」にはその名詞のもっとも一般的なプロセス・作用と動作の意味が含まれる。そして、動詞を作る meN-接辞と結合し、動詞を作ることができ、他の名詞と慣用句も作ることができる。慣用句 <N1 - N2> はく被修飾-修飾> の関係を成し、ke-an 構文で「N2 が N1(すること)によって、ある状態が引き起こされる(⇒被動者に迷惑の影響をもたらす)」という意味構造を持つ構文になる。

### 3.2. 形容詞

マレーシア語の形容詞は接辞をつけることによって、動詞にすることができる。注5にもあるように、形容詞に meN-接辞をつけることによって、動詞を派生する。また、ke-an 共接辞をつけることによって、名詞、動詞と別の形容詞としての用法を作ることができる<sup>7)</sup>。このような特徴から、マレーシア語の形容詞は日本語では形容詞のほかに、状態動詞とも対応性を持つと考えられる。

なお、マレーシア語の形容詞をほかの品詞(名詞と動詞)と区別する方法として、形容詞の前もしくは後ろに副詞<sup>8)</sup>を置くことができるという特徴がある。

マレーシア語の形容詞は下記の9つのグループに下位分類される。

- ① 状況や状態を表わす形容詞: berat(重い), bulur(お腹がすく), gelap(暗い), takut(怖い) など
- ② 色を表わす形容詞: merah(赤い), putih(白い), biru(青い), kuning(黄色い) など
- ③ ものの外見を表わす形容詞: panjang(長い), kecil(小さい), tinggi(高い) など
- ④ 形を表わす形容詞: bulat(丸い), bujur(楕円形だ), bengkok(曲がっている), lurus(真直ぐだ) など
- ⑤ 時間を表わす形容詞: baharu(新しい), lama(古い), segera(すばやい), lewat(遅い) など
- ⑥ 距離を表わす形容詞: jauh(遠い), dekat(近い) など
- ⑦ 方法を表わす形容詞: cepat(速い), lambat(遅い), jelas(はっきりしている), selalu(よく) など
- ⑧ 感情を表わす形容詞: rindu(恋しい), benci(嫌いだ), suka(好きだ), gembira(嬉しい) など
- ⑨ 感覚を表わす形容詞: sedap(おいしい), cantik(きれいだ), bisung(うるさい), harum(香ばしい), halus(細かい) など

以下では、マレーシア語の ke- -an 構文で、語基が形容詞の例文<sup>9)</sup>を考察する。A は ke- -an 構文を、B は A に対応する能動文を示している。

- (12) A. Saya tidak **keberatan** menemani saudara ke  
私 ~ない ke-重い-an meN-友達-i あなた ~へ  
tempat itu. (私はあなたと共にそこに行ってもいい。)  
場所 その  
B. Saya tidak (berasa) **berat**... (私は構わない...)  
私 ~ない 重い ...
- (13) A. Jika peperangan berlanjutan, akan **kebuluran**lah  
もし 戦争 続く, (未来形) ke-お腹がすく-an  
rakyat jelata. (戦争が続いていたら,  
人民 人民が餓死してしまう。)  
B...., rakyat jelata akan (berasa) **bulur**. (人民が餓死する)  
人民 (未来形) お腹がすく
- (14) A. Dia menggigil **keedinginan**. (彼は寒くて  
彼 震える ke-寒い-an 震えている。)  
B. Dia (berasa) **dingin**. (彼が寒がっている...)  
彼 寒い
- (15) A. Anak itu **kegatalan** kerana badannya berkudis.  
子 その ke-痒い-an ~から 体-彼の 田虫にかかっている  
(そのこは体が田虫にかかっている痒い。)  
B. Anak itu (berasa) **gatal**... (その子は痒そう...)  
子 その 痒い ...
- (16) A. Pulanglah sekarang supaya tidak **kegelapan** di  
帰る lah 今 ~ように ~ない ke-暗い-an ~で  
jalan. (道が暗くなる前に、早く帰った方がいい。)  
道  
B. ...awak tidak (berasa) **gelap** di jalan.  
...あなた ~ない 暗い ~で 道  
(...あなたが道を暗く感じない)
- (17) A. Tekak masing-masing **kekeringan**.  
のど 彼ら ke-乾く-an  
(彼らは咽が渴いている。)  
B. Tekak masing-masing (berasa) **kering**.  
のど 彼ら 乾く  
(彼らはのどが渴いている)

- (18) A. Laksamana dan Sang Setia tersandar di bawah  
大将 と 忠実くん ter-よりかかる ~で下  
pokok itu **keletihan**. (大将と忠実くんは疲れて  
木 その ke-疲れている-an 木の下でよりかかる。)
- B. Laksamana dan Sang Setia (berasa) **letih**.  
大将 と 忠実くん 疲れている  
(大将と忠実くんは疲れている ...)
- (19) A. Ia **kemarahan** sekali mendengar jawapan orang  
彼 ke-怒っている-an とても meN-聞く 答え 人  
itu. (彼はその人の答えを聞いてとても怒った。)  
その
- B. Ia (berasa) **marah** sekali... (彼はとても怒っている...)  
彼 怒る とても ...
- (20) A. Dia menangis **kepedihan** apabila dicubit oleh  
彼 泣く ke-痛い-an ~のとき di-つねる oleh  
ibunya. (彼はお母さんにつねられて痛くて  
母-彼の 泣いた。)
- B. Dia (berasa) **pedih**... (彼は痛がっている...)  
彼 痛い ...
- (21) A. Dia **kepenatan** setelah mengejar pencuri itu.  
彼 ke-疲れる-an ~の後 meN-追いかける 泥棒 その  
(彼は泥棒を追いかけて疲れてしまった。)
- B. Dia (berasa) **penat**... (彼は疲れた...)  
彼 疲れる ...
- (22) A. Anak itu menjerit-jerit **kesakitan** kerana dipukuli  
子 その 叫ぶ ke-痛い-an ~から di-殴る-i  
ayahnya. (その子はお父さんに殴られて痛くて  
お父さん-彼の 泣き叫んでいた。)
- B. Anak itu (berasa) **sakit**... (その子は痛がっている...)  
子 その 痛い ...
- (23) A. Dia **kesepeian** tinggal seorang diri. (彼は一人で  
彼 ke-寂しい-an 住む 一人 自分 住んでいて寂しい)
- B. Dia (berasa) **sepi**... (彼は寂しがっている...)  
彼 寂しい
- (24) A. Anak itu **ketakutan** setelah menonton filem yang  
子 その ke-怖い-an ~の後 meN-見る 映画 yang  
mengerikan itu. (その子はその恐ろしい映画を見て  
恐ろしい その 怖がっている。)
- B. Anak itu (berasa) **takut**... (彼は怖がっている...)  
子 その 怖い ...

以上の例文で示されているように、ke- -an 構文と

その能動文は基本的に同じ統語パターンを持っている。(12)~(24)のB.(能動文)に示されるように、'berasa (感じる)'という動詞を挿入するとより自然な文になるが、たとえそれがなくても形容詞文として適切な文である。すなわち、形容詞自体でもその状況を十分に表すことができる。それにもかかわらず、わざわざ ke- -an 構文を用いて表現しているのはなぜであろうか。

形容詞から作られる ke- -an 構文には「不可避免的に迷惑を被ることに直面させられる」(松岡 1990:126)とある。それとは対照的に、語基の形容詞のみで作られた能動文は、ある状況を客観的にしか表現していない。従って、ke- -an 構文にするのは「形容詞で表されている状況が迷惑のものとなり、被動者に降りかかる」という迷惑の意味を加えるためであると解釈することができる。

形容詞を用いた ke- -an 構文を見ると、有生名詞が主語になることが多い。この場合、有生名詞は形容詞から派生された迷惑の感情や感覚を感じ取る「経験者 (=被動者)」となる。「経験者」はその感情を意識的にコントロールすることができず、不可避免的に直面させられる。また、主語が無生名詞の(17)では、主語は Tekak masing-masing (彼らののだ) という所有物である。この場合、持ち主が自分の所有物の置かれている状況や状態からマイナスの影響を受ける「経験者」となる。

ke- -an 述語動詞を作ることでできるほかの形容詞を見てみると、次のようなものがある。kelaparan (お腹がすいている)・kepanasan (暑がっている)・ketakutan (怖がっている)・kehausan (のどが渴いている)・keinginan (寒がっている)・kesakitan (痛がっている)・kegatalan (痒がっている)・kesepeian (淋しがっている)・keberatan ((気が)重く感じる)・kelelahan (疲れている)・kekejutan (驚いている)・kehairanan (不思議に思う)・kebingungan (ぼう然としている)・kegelisahan (いらついている)・kekeringan (乾いている)・kehangusan (焦げている)・keimbangan (心配する)などがそうである。

これらの形容詞はマレーシア語の形容詞の分類では、いずれも①の「状況や状態を表す形容詞」というグループに入るものである。しかも、被動者にとって望ましくないと思われる状況ばかりである。baik (良い)や pandai (賢い)や sihat (健康的だ)などのようなプラスの意味を持つ形容詞は ke- -an 述語動詞を作ることができない。このことから、ke- -an 述語動詞を作る形容詞はその形容詞のもとの語彙的意味に左右されるということが出来る。

- ①「状態や状況を表わす形容詞」は ke- -an 述語動詞を作ることができる。述べたが、その他のグループの形容詞はどのような派生語を作るのだろうか。以下では、②～⑨のグループの形容詞に ke- -an 共接辞をつけてみると、動詞ではなく、名詞や別の形容詞を派生する結果が得られた。
- ②色を表わす形容詞：kemarahan (赤っぽい)、keputihan (白っぽい/白さ) など
- ③ものの外見を表わす形容詞：kepanjangan (長さ/やや長い)、kekecilan (小ささ/やや小さい) など
- ④形を表わす形容詞：kebulatan (丸っこい)、kebulatan (楕円形) など
- ⑤時間を表わす形容詞：kelamaan (やや時間がかかる)、kelewatan (やや遅い) など
- ⑥距離を表わす形容詞：kejauhan (やや遠い)、kedekatan (やや近い) など
- ⑦方法を表わす形容詞：kecepatan (速さ/やや速い)、kelambatan (遅さ/やや遅い) など
- ⑧感情を表わす形容詞：kerinduan (恋しさ)、kebencian (憎しみ) など
- ⑨感覚を表わす形容詞：kesedapan (おいしさ)、kecantikan (きれいさ) など

### 3.3. ke- -an 述語動詞の語基の特徴

以上見てきたことから、ke- -an 述語動詞を派生する名詞と形容詞の特徴を次のようにまとめることができる。ke- -an 述語動詞を派生するのに、それぞれの品詞に異なる特徴が課せられていることが明らかになった。

- 1) 「純名詞句」はある「もの」もしくはある現象を表わす名詞である。これらの名詞は meN-接辞と結合することができないし、動詞の意味も持たない。そして、「純名詞句」から作られた ke- -an 構文は対応する能動文がない上、数も限られている。その派生は慣用的な用法によるものと考えられる。
- 2) 「動的名詞句」は「もの」や現象を表わすと同時に、その名詞にとってもっとも一般的なプロセス・作用と動作の意味も含んでいる。これらの名詞は meN-接辞と結合して、名詞に含まれた動詞の意味を表わす動詞を派生する。動詞の意味の含みから、別の名詞と結合して <被修飾-修飾> の関係を成す慣用句を形成する。
- 3) 「形容詞」は「状況や状態を表わす形容詞」に限られる。マイナスの意味を持つ形容詞のみが ke- -an 述語動詞を作ることから、ke- -an 述語動詞を派生する形容詞は語彙の意味に依存していると

言える。形容詞を語基とした ke- -an 述語動詞は、その形容詞の語基自体でも文を作ることが可能である。しかし、あえて ke- -an 構文にしているのは文における迷惑の意味と被動者に対する被害を表すためである。

- 4) 「純名詞句」には対応する能動文がないが、「動的名詞句」と「形容詞」の ke- -an 構文には対応する能動文がある。そして、両語基に共通して備わっている特徴は、能動文における主語の特徴である。
- 5) 「動的名詞句」の能動文では、主語となるものは原動力を持つ無生名詞である。このような名詞には動作主の意志が読み取れず、むしろ自然現象であるにとらえるほうが妥当であろう。一方、「形容詞」の能動文では、主語に立つものは2種類ある—有生名詞と所有物—。しかし、主語が有生名詞であっても、これらの主語は動作を引き起こす動作主ではなく、形容詞で表わされている状況や状態を感じ取る「経験者」である。また、所有物が主語に立つ場合、所有物の置かれている状況や状態から、そのものを所有する持ち主が影響を受ける「経験者」となる。「動的名詞句」の無生名詞からも、「形容詞」の「経験者」からも、動詞に対する意志が読み取れないという共通点がある。

## 4. 日本語の間接受身の語基との比較

三上(1953, 1972)は、日本語の受身形が可能な動詞を「能動詞」、受身形が不可能な動詞を「所動詞」として区別した。三上のこの能動詞、所動詞は現代的な言い方をすれば、前者が非能格動詞(及び他動詞)に、後者が非対格動詞に対応する。

影山(1993:59-60, 1996:31)は、上記の対応をもとに日本語の被害(間接)受身文を考察し、非能格動詞は被害受身が可能であるが、非対格動詞は被害受身にならないことを一般化した。

注2)にも示したように、非能格動詞は、主語の内発的な動作・作用を表しているもので、動作主の意志性がうかがえるものである。受身文や使役文を作ることができ、可能や願望、意志や命令を表現することができる特徴を持っている。一方、非対格動詞は主語の意図的行為を表わすものではなく、また主語は行為者ではなく対象である。そして、これらの動詞には非能格動詞のように、受身や使役、命令形などにならない。

前節でも述べたように、「動的名詞句」と「形容詞」の能動文においては、主語の意志が読み取れないものである。これらの語基は、日本語の「非能格動詞」よりも、

意図を持たずに受動的に事象に係わる対象を主語にする「非対格動詞」の特徴に似ていると考えられる。

このように、日本語の間接受身を作る動詞とマレーシア語の ke- -an 述語動詞を作る動作主に意志性の違いが見られる。日本語の間接受身を作る動詞には、動作主の意図(意志)性は必要不可欠の重要な要素であるのに対して、マレーシア語の ke- -an 述語動詞を作る語基は、必ずしも動詞であるとは限らない。また、能動文で表わされている事象は人為的な動作ではなく、外的要因によるものであることが前提となる。

これは ke- -an 構文の持っている意味と深くかかわっていると考えられる。Soenjono Dardjowidjojo (1978) は、ke- -an 構文は次の意味特徴を持っているという。ke- -an 構文で表わされている事象は予測することもできないし予知することもできない、迷惑(adversative)の影響を及ぼすものであるという。すなわち、ke- -an 述語動詞は“to befall someone or something, a phenomenon indicated by the base” (語基によって示されるある事象がある人もしくはあるものにふりかかる)」という意味になる。この説明から、ke- -an 構文の能動文で表わされていることは人為的な動作ではなく、事象としてとらえられる。能動文の動作性よりも、結果に注目しているため、ke- -an 述語動詞の形成には動作主の意志は重視されないと考えられる。

## 5. まとめと今後の課題

以上、ke- -an 述語動詞を作る語基として、名詞と形容詞を取り上げて分析・考察を行った。その中で、「もの」を表わす「純名詞句」の ke- -an 述語動詞への派生は慣用的なものであると考えられる。「動的名詞句」と「形容詞」の場合は、ke- -an 構文に対応する能動文においては、主語の意志性がないことが明らかになった。

しかし、今回は名詞と形容詞のみについて考察し、日本語と同じ動作を示す動詞については言及していない。Leow(1999)の分析では、ke- -an 構文はマレーシア語では自動詞に限らず、他動詞からも派生される。動詞から作られるマレーシア語の ke- -an 述語動詞と日本語の間接受身を作る動詞との共通点・相違点を考察することが今後の課題となる。

### 【注】

1) ke- -an 共接辞は動詞のほかに、名詞と形容詞を作る働きも共に持っている。本稿では、ke- -an 共

接辞によって派生される動詞から作られる受身文のみを扱う。また、ke- -an 構文の構成要素となる受身動詞のことを「ke- -an 述語動詞」と呼んで、ke- -an 共接辞によって作られる名詞と形容詞と区別する。

2) 「非能格動詞」と「非対格動詞」の定義について、高見・久野(2000)は次のように述べている。『非能格動詞は、(i)意図的に事象にかかわる行為者(Agent)を主語にする自動詞(例えば「遊ぶ」、「歩く」、「話す」)、および(ii)非意図的な生理現象を表わし、経験者(Experiencer)を主語にする自動詞(例えば、「眠る」、「泣く」、「吐く」)であり、…一方、非対格動詞は、(i)意図を持たずに受動的に事象に係わる対象(Theme)(または被動者(Patient))を主語にする自動詞(例えば、「燃える」、「落ちる」、「沈む」)、(ii)存在や出現を表わす自動詞(例えば、「ある」、「現れる」、「起こる」)(iii)「始まる」、「終わる」、「続く」などのアスペクト動詞等であ』(p.81)る。

3) もともと ke- -an 共接辞は名詞と動詞の両方を派生する働きがある。しかし、その中でも、抽象的な名詞を作る働きが主に論じられている。1960年代に入ってから、ke- -an 共接辞が動詞を作る働きにも注目されつつあり、取り上げられるようになった。

4) インドネシア語はマレーシア語と同じく、オーストロネシア語族である。両言語とも「ムラユ」語の変種で、「異音分布の細部と、語彙要素のやや大きな出入りとを除いて、大きな違いはない」(亀井他 1992: 371)ということで、文法的に共通していると理解され、参考資料として取り入れられる。

5) meN-接辞は名詞と形容詞と結合して、動詞を派生する機能を持っている。meN-接辞とは、meN-接頭辞のほかに、meN- -i 共接辞と meN--kan 共接辞も含まれる。そして、meN-接辞は音韻規則により、形態が五つの形に辞形変化する。

i . 語幹の頭音: m, n, ng, ny, l, r, w, y → me-

ii . 語幹の頭音: 母音, g, h, (k), kh → meng-

iii . 語幹の頭音: b, (p), (f), v → mem-

iv . 語幹の頭音: (t), c, j, z, sy → men-

v . 語幹の頭音: (s) → meny-

\* ( ) の音が消失し、鼻音に代替される。

6) 語基の最後の文字が i の場合、接尾辞 -i が前の文字に吸収され、表示されなくなる規則がある。

7) ke- -an 共接辞と結合する形容詞は名詞、動詞と形容詞を派生することができる。それぞれの派生語には次のような意味がある。

名詞: ①抽象的な名詞

cantik(きれいだ) → kecantikan(美しさ)

②場所を示す名詞

tinggi(高い)→ ketinggian(高い所)

③～される人・物

sayang(可愛い)→ kesayangan

(可愛がられる人・物)

動詞：受身動詞

panas(暑い)→ kepanasan(暑くされる)

形容詞：①やや～

kecil(小さい)→ kekecilan(やや小さい)

②「～的な, ～らしい」

bulat(丸い)→ kebulatan(丸っこい)

8) 形容詞に先行する副詞は sangat(とても), amat(非常に), terlalu(あまりにも), sungguh(実に)などがあり, 形容詞に後続する副詞は sekali(極めて), sungguh(実に), benar(本当に)などがある。

9) これらの例文は Amdun Husain 編.(1995) *Kamus Pelajar Cetakan Kedua Belas.*, Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka から抜粋したものである。

【参考文献】

Amdun Husain 編.(1995) *Kamus Pelajar Cetakan Kedua Belas.*, Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

小野沢純(1996)『基礎マレーシア語』大学書林

影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房

影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版

Kanou, Chieko.(1982a) 'A Contrastive Study of "Voice" System in Japanese and Bahasa Malaysia.' *A thesis submitted in Partial Fulfillment of the Requirement for the Degree of Master of Interna-*

*tional Affairs.* The University of Tsukuba.

加納千恵子(1982b)「日本語・マレーシア語におけるヴォイスの比較対照研究—日本語教育の立場から—」『日本語と日本文学』2 pp.11-24

亀井孝・河野六郎・千野栄一(1992)『言語学大辞典』第4巻 三省堂

Soenjono Dardjowidjojo.(1978) *Sentence Patterns of Indonesian.*, Honolulu: University of Hawaii Press.

Soenjono Dardjowidjojo.(1983) 'Struktur Semantik Dari Katakerja KE-AN.' *Beberapa Aspek Linguistik Indonesia.*, Jakarta: Penerbit Djambatan. pp.110-143

高見健一・久野暉(2000)「日本語の被害受身文と非能格性【上】」『言語』29-8 pp.80-91

三上章(1953)『現代語法序説』刀江書房 復刊(1972)くろしお出版

松岡邦夫(1990)『インドネシア語文法研究』大学書林

森村蕃(1992)「インドネシア語に見られる間接受動的表現」『大阪外国語大学論集』8 pp.19-30

Leow, Yoon Chin.(1999)「日本語とマレーシア語の対照研究—迷惑の受身を中心に—」広島大学大学院修士論文

Leow, Yoon Chin.(2000)「迷惑の受身に関する一考察—マレーシア語との対照を通して—」『日本語教育』104 pp.40-49

Leow, Yoon Chin. (2001) 'Analisis Ayat Pasif KE-AN dalam Bahasa Melayu: Suatu Perbandingan dengan Ayat Pasif Tidak Langsung dalam Bahasa Jepun.' *Dewan Bahasa* 1-11. pp.43-51

(主任指導教官 多和田眞一郎)